

飯森山

(冠字番号 堀 第4号)

成果 X=-242279.307m
Y=-79922.385m
標高 1595.39m

世界測地系「測地成果2011」

一等三角点シリーズ (飯森山編)

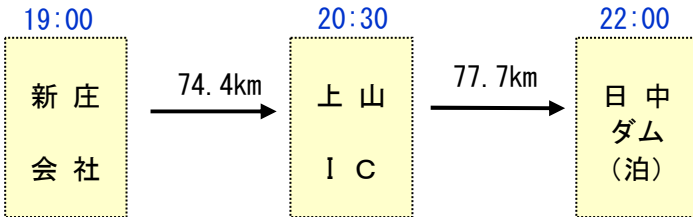
大和工営一等三角点の会

点の記抜粹	選点 造標 埋標 観測	明治25年9月20日 平成一年一月一日 明治26年8月11日 平成8年9月5日	選点者 — 埋標者 観測者	堀江當三 — 高井鷹三 Ⓞ 山下勝彦
(備考) 平成8年8月7日更新、高度基準点測量 所在 山形県西置賜郡飯豊町広河原見立外4 国有林 (33 林班ろ小班)				

登山日 2016年7月9日(土) ~ 7月10日(日)

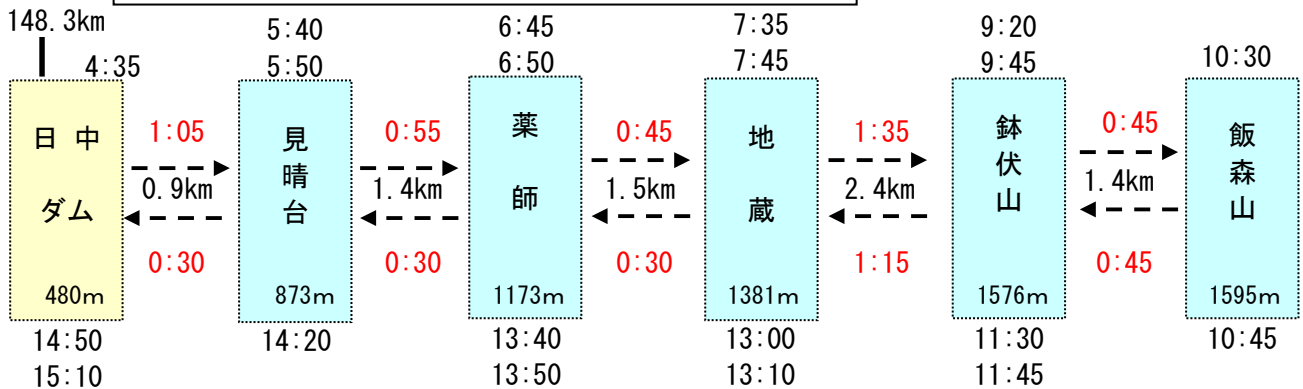
コースタイム 全行程 10:15 (歩行時間、往路5:05 復路3:30 計8:35) ※赤字は所要時間

第1日目(9日) 延長、車: 152.1km、登山道: —。



こんな処で泊まりました。

第2日目(10日) 延長、車: 148.3km、登山道: 15.2km。



うつくしま百名山の日中飯森山

ふたつの飯森山・・・

山形県には21の一等三角点があるが、飯森山という呼び名も漢字も同じ三角点がふたつある。ひとつは酒田市の土門拳記念館の裏山にある標高42mの飯森山で、もうひとつが今回の福島県境にある標高1595mの飯森山である。

1998年、福島テレビの開局35周年記念事業として福島県内の百名山を「うつくしま百名山」として選定された。その百名山の中で飯森山は飯豊山（標高2105m）と並んで最も困難な山とされているそうである。山形県からの登山ルートはなく、福島県熱塩加納村（現喜多方市）にある日中ダムから尾根コースと沢登りコースのふたつのルートがある。そのダムにちなみ「日中飯森山」と地元では呼んでいるようだ。この山への登山を前夜現地に泊まり翌朝は日の出と共に登山を行うことで決行した。



夜間走行で日中ダム泊まり・・・

仕事を終え、会社から午後7時に3人で出発した。国道13号と高速道を取り継いで南下していく。上山付近が中間点で、Pm8:30を過ぎていた。近くのスーパーに立ち寄り、今夜と明日の食糧の買い物をして、再び米沢を目指して南下していった。

米沢から国道121号を喜多方方面に向かった。登山口の日中ダムは県境から喜多方へ7km程入った所にある。県境の大峠トンネルを過ぎて、8個目の日中トンネルを過ぎてすぐ左折した処が日中ダムへの入口であった。Pm10:00。ダム管理事務所前の駐車場に着いた。

周囲は真っ暗闇である。車のライトとランタンの灯りで持参したテントを張り、ささやかな宴を繰りひろげた。明日の日の出はAm4:25で、その時刻に登山を開始する予定である。なので、Pm11:30には就寝することにして始めた宴だったが、酔うほどに話が弾み、寝たのがAm1:30であった。



一夜を過ごしたテントを片づけて・・・



夜明けの湖面眺めていた・・・

遠くて長い山頂への道・・・

夕べは、頑張りすぎた??・・・

朝4時前に起きた。2時間30分足らずの睡眠時間ということになる。予定の10時に山頂に登る。そして帰りは日中ダムを午後3時に出発する予定にしているのだが？。他の2人はともかく、夕べは頑張りすぎた??。もう若くはないと言う事を自戒すべきであったろうが・・・。

Am4:35に出発した。登山口には5分程でついた。ここから見晴台までは標高差400m程あり、いきなりの急登である。半分は夢の中と二日酔い状態で急坂を登り詰めていく嵌めになった。



これから未知の世界に入り込むが・・・

使用前？の証拠写真を撮る・・・

いきなりの急登!??

頑張りすぎたツケに襲われながらも早朝の山道を登っていく。まだ5時前でようやく明るくなってきた林の中は清々しい。黙々と登り汗が滲んで来た頃に見晴台の看板の処についた。時刻はAm5:40。ここで一息ついた。朝靄がかかり「見晴らし」は望めなかった。四等三角点の「見晴台」はここから300mほど先に進んだ小径の右手にあった柱石は御影石の三角点で、苔生していた。



第1関門の見晴台を通過し・・・ 四等三角点 見晴台



喜多方地区山岳遭難対策協議会

整備された登山道・・・

見晴台の三角点を過ぎ尾根道を登っていく。登山道は広くてよく整備されていた。赤と黄色がこの山のイメージカラーなのか、四角い案内板に「薬師寺」と書かれた地点に着いた。お寺?と書かれてはいるが建物はなく、左手奥に小さな祠が祀られていた。



三角点から少し下り、また急坂を登り・・・



薬師寺の看板で一服だ・・・



地蔵のピークが・・・

あそこまで行って、まだ半分かァ・・・

現在地を確認して歩く・・・

道はブナの樹林帯に続いている。地蔵を経由し「赤沢別れ」までは北上し、その先は北東方向に進んだ奥に目指す飯森山がある。登山道が尾根のピークに出た時、霧の中から稜線が見えた。が、全員初めて登る山である。歩いてきた方角と登山道の勾配の緩急、歩いた時間で、地形図と比べて現在地を確認する。登山ではこの現在地を確認することが肝要である。薬師寺を出発して進むと霧の中から地蔵のピークが見えてきた。そこに着いてようやく山頂までの半分の行程である。

地蔵で三角点を探したが・・・

30分程登ると、霧が吹き飛んだ地蔵の峰が間近に望むことが出来た。Am7:30。地蔵に辿り着いた。ここまで丁度3時間。標高で900m登ったことになる。時間的にはまだ余裕と思っていた。

ここには「大倉」という点名の三等三角点がある筈だ。登山道の両側は大小の雑木が生い茂っていたが、それらしい所を物色してみたものの簡単には見つからなかった。すぐ見つかるだろうと「点の記」を持って来なかったのである。

こんな所に「遭難の碑」が??・・・

地蔵から少し歩いていくと登山道のど真ん中に石碑が建っている。路傍なら見逃していくかも知れないが、否応なしに目につく。立ち止まって石碑の正面を見ると「遭難の碑」と刻まれている。日付は12月で20代の青年の方の「碑」であった。誰もが気づくよう登山道のど真ん中に「遭難の碑」を建てたのだろうか。遺族の方からの強いメッセージにも受け止められた。

前衛峰が見えてきた・・・

「遭難の碑」から1時間程で大倉の頭に到着。ここから下りとなり Am8:41 に血の池を通過し、Am8:48 高倉窪に到着した。高倉窪からは飯森山の前衛となる鉢伏山への急坂を登ることになる。私達は標高差約150mの道を黙々と登り続けた。

地蔵（三角点名は大倉）



もう少しで半分は踏破だ!!

地蔵の看板



遭難の碑



ここで何があったんだろう・・・



高倉窪キャンプ場

案内板は地面に置かれたまま・・・



鉢伏山
(三等三角点)

霧の中から前衛峰の鉢伏山が現れる・・・

飯森山登頂への決断!??・・・

Am9:20。ついに三等三角点鉢伏山に到着した。登山口から5時間近くを費やしていた。三人ともかなりの疲労を感じていた。目的の飯森山へは標高差124mの「種蒔」まで下り、そこから再び143mを登らなければならない。一瞬（引き返す方法もあるとの思いが）と脳裏をよぎる。が、片道50分の山頂である。負担を軽減する為に水等必要なものだけ持ち、ザック等はここに置いたままにして、山頂まで登ることにした。



鉢伏山まで来たが・・・



三角点柱石

奈落の底??から、這い上がる ??..

Am9:45。山頂目指して出発する。最初は稜線を進むが、まもなく種蒔という鞍部への急降下の坂道となる。柴の枝に掴まりながら、足元を確認しながら下っていく。種蒔には水田を思わせるような湿地があり、花期を過ぎたミズバショウが生い茂っていた。「あッ、」という間に種蒔の山底に下りた。今度はその分山頂への急坂を這い上がることになる。種蒔からの登山道は沢筋の道が尾根筋へと変化していく。尾根道の急坂を登り稜線に合流した。登山道は稜線の右手に続いていた。この稜線は福島と山形の県境となっている。



種蒔の湿原

種蒔きの水田?かな??



飯森山

山形県

福島県

県境の尾根、山頂は近し・・・

ついに一等三角点飯森山とご対面 !!..

県境の稜線は絶景のパノラマが望める筈なのだが、いかんせん高曇りの空が眺望を隠していた。新緑の稜線には涼やかな風が流れていた。数分でついに一等三角点飯森山に到達した。鉢伏山から予定通りの50分を費やしての登頂である。山頂からの絶景は叶わぬものの、目的の飯森山山頂に立ち、達成感を肌で感じ取っていた。

まずは登頂の証拠写真を撮る。登山道は県境の北の稜線へと続いている登山道足を延ばしてみた。ドウタンツツジの群落を過ぎると神社の祠があった。その先は沢登りコースへと続いているようだ。



合成写真です

飯森山の三角点に タッチ・・・

登頂 飯森山 !!



よぐも、ここまで来たなァ・・・



咲き誇る ウラジロヨウラクの花・・・



その奥には飯森山神社が鎮座している・・・

奮闘をかみしめて下山する・・・

6時間かって登頂した飯森山だが15分の滞在で下山を開始した。県境を離れて尾根道を下山していった。すると単独の男性の方が登ってきた。その足取りは軽やかで若々しかった。挨拶を交わしてすれ違うと彼は灌木の中に消えていった。種蒔まで下り、今度は鉢伏山への急坂を登り始める。急坂で道が剔れた箇所は段差が出来ていた。柴の枝や笹を掴みながらの登行を続けていく。悪戦苦闘の末、稜線に出た時は「ホッ」とした。

再びザックを背負う!!・・・

Am11:30。鉢伏山に戻った。再びザックを背負い帰路を歩いて行く。大倉の頭を過ぎた頃、後方から鈴の音が聞こえてきた。先程の単独行の方の鈴の音である。それがリズムカルに響いて大きくなってくる。その場で道を譲るように立ち止まって小休止をすることにした。若さなのだろうか？ 私達とすれ違った彼は次第に姿が小さくなり見えなくなった。

記憶にない急坂を下る??・・・

下山頂を出発し3時間35分後のPm2:20に見晴台についた。あと40分で駐車場にたどり着く筈だが、そこからの下山の道はこれでもかという程長くな^がく感じられた。そしてようやく平坦な舗装道路に出た。Pm2:50。ついに駐車場に戻った。

日中ひざわ湖と秘湯の宿・・・

飯森山は山頂の所在こそ山形県だが、福島県の山と言った方が正確な表現かも知れない。登山口は福島県の日中ダム（愛称：日中ひざわ湖）からしかなく、その登頂路はほとんどが福島県内ということになる。山名も「日中飯森山」と呼称され親しまれている。ダム湖は毎年7月に「日中ひざわ湖まつり」が開催され多彩なイベントが繰り広げられているようである。ダム堤体の真下には大胆にも日中温泉があり、ヒメサユリの咲く秘湯として多くの方が訪れているそうである。

夜明けのダムと違いダイナミックな・・・



昼間の「日中ひざわ湖」デス・・・

日本秘湯を守る会は昭和50年33件の旅館で結成された



福島秘湯「日中温泉」はダムの真下にあった

日中ダムの概要



日中ダムってどんなところ？

喜多方市内の水道水や農業用水のはじまりは日中ダムです。雨が降らなくて水不足のときでも、家庭の水道水が困らないように、水を貯めている所です。

ひざわ湖の面積 0.79km²

『ひざわ湖』は、ダムによって出来た湖の名前です。東京ディズニーランドとほぼ同じ広さがあります。

ダム堤体の長さ 423m

16両新幹線(400m)よりも長いです。

ダム堤体の高さ 101.8m

会津若松市の鶴ヶ城(36.15m)の約3倍の高さがあります。



階段があって、右岸側は470段、左岸側は290段もあるんだ。

監査廊(かんさろう)

ダムの点検用の管理用通路です。

ダムの内部に設置されており、人が歩いて点検できるようになっていて全長は476.3mあります。

資料：日中ひざわ湖まつり実行委員会